

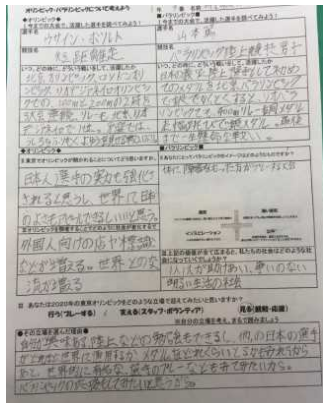
平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

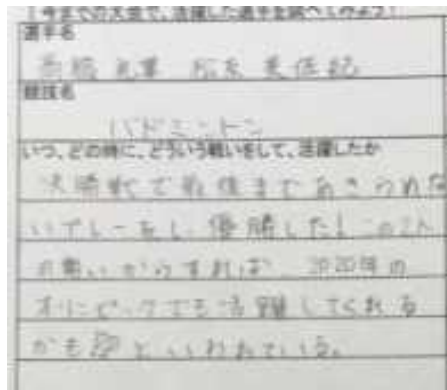
- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

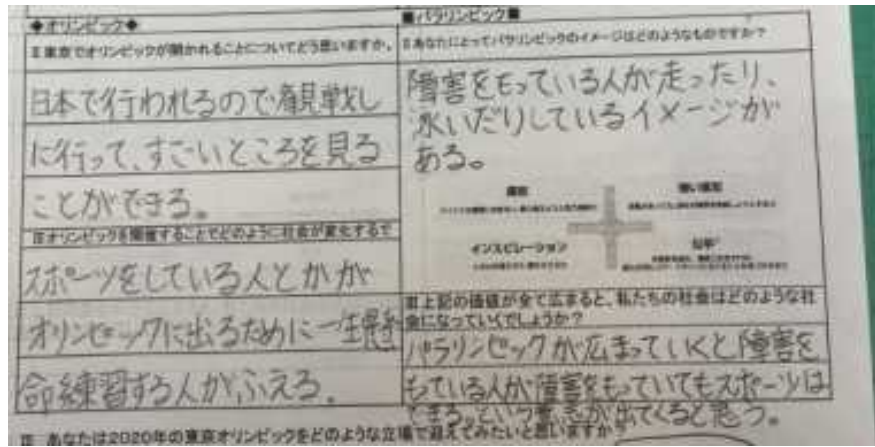
1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	山田町立豊間根中学校 1学年17名 2学年20名 3学年20名 計57名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに関わる学習を通し、スポーツが持つ価値や人々の結びつきについての理解を深めるとともに、トップアスリートとの関わりによって生徒自身がより良い生き方を目指そうとする態度を育み、スポーツに対する関心、並びに2020東京五輪に対する関心を高める。
5 取組内容	<p>【全学年】</p> <p>①オリンピック・パラリンピックの歴史や意義についての学習 (2時間)</p> <p>②訪問アスリートについての事前学習 (1時間)</p> <p>③オリンピックを招いての講演・実技講習 (2時間)</p> <p>④講演・実技を終えての感想文作成 (1時間)</p> <p>⑤オリンピック・パラリンピックに関わるワークシート課題</p>



(シート全容)



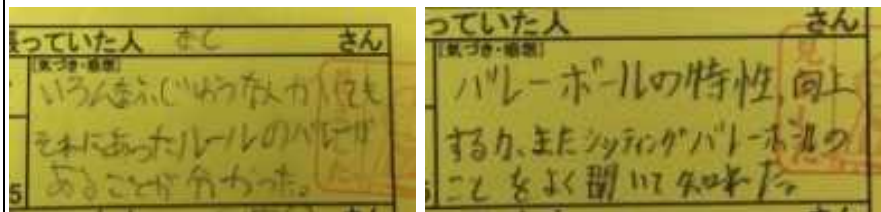
(生徒記述)



(生徒記述)

【1学年】

⑥バレーボール単元内でのパラスポーツに関わる学習（1時間）



(授業振り返りシートより抜粋)

6 主な成果

- ①オリンピック・パラリンピックの歴史や意義についての学習
 - ・様々な資料を提示することで、オリンピックやパラリンピックについての関心や興味を高めることができた。
 - ・I'm possible の教材を活用することでパラリンピックの知識や存在意義について意欲的に学習に臨むことができた。
- ②訪問アスリートについての事前学習（1時間）
 - ・事前学習の実施により、競技に対する理解を深め、アスリートとの交流の充実につながった。
- ③オリンピックを招いての講演・実技講習（2時間）
 - ・講演を通し、「最初から何でもできた」のではなく、目標設定や努力を継続することの大切さを学ぶことができた。
 - ・実技では全員で楽しく体を動かし、スポーツをすることによって得られる気持ちよさや一体感を体感することができた。





④講演・実技を終えての感想文作成

・事後学習として行った感想文では、どの生徒も書きたいことが多くある様子が見られたことから、印象深い時間となったことが窺えた。

・講演の中で出てきたキーワードを多くの生徒が記述しており、心に響く時間になったと思われる。

～感想文より抜粋～

・どんなところからでも強くなっていけることを知りました。僕は正直「始めからうまいのだろうな」と思っていたのですが、話を聞いていると努力をすれば何でもできると思ったし、自信が持てました。

・夢や目標に向かって努力することはとても大切だと思いました。もし、夢が叶わなくても、続けてきた努力は無駄にならない、自分にとってプラスになると話を聞いてわかりました。

・仲間を大切にしていれば応援してあげたり、困っている時やつらいときは、声をかけたりするようにしたいです。

・あと1歩というところで私が勝てないのは、私生活がきっかけだということがわかりました。

・大山加奈さんの話を聞いて、バレーに対する興味を持つことができました。

⑤オリンピック・パラリンピックに関わるワークシート課題

・オリンピック・パラリンピックに対する知識や自分の考えを書くことで、イベントに対する意識を高めることができた。

・調べ学習を行わないといけない課題にすることで、オリンピック・パラリンピックともに様々な競技や選手を知るきっかけとすることができた。

⑥バレーボール单元内でのパラスポーツに関わる学習

・競技の特性に加え、様々な派生種目を知る中でシッティングバレーなどのインクルーシブな種目があることを学び、パラスポーツについて考えることができた。

・誰でも楽しめるように、物や施設・ルールを柔軟に対応しながら変化させていくことの大切さを理解することができた。

7実践において工夫した点(事業の特色)

・本校は人口減が進む沿岸部に立地しており、スポーツイベントや有名選手と接する機会は少ない。そのために、本事業によって貴重な機会を得ることができ、生徒たちの感動が大きいものとなった。

・全校57名という小規模な学校であることを生かし、全校での事業実施(講演・実技ともに)とすることで、校内全体で感動を

	共有することができた。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・実施時期の選定に苦慮したので、学校行事等をあらかじめ確認しておき、早い段階で予定を組んでおく必要がある。 ・アスリート希望調査までの時間が短いために、あらかじめ可能な候補アスリートをすべて列挙した状態が、選択する上で望ましい。 ・当日のアスリート対応を行う上で、学校では判断できない部分もあるために、アスリートのマネージャーを随行してもらえるとよい。随行不可の場合は、事前連絡を円滑に行えるようにマネジメント会社との調整を図ってもらいたい。 ・冬期間開催の場合、気候や路面状況に交通が大きく影響されることから、ゆとりある行程を設定するか、開催時期を見直す（冬期間を除く）などの対策が考えられる。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・東京五輪に関わって、さらに事業が進行し、新たな情報や活躍する選手が生まれることが考えられるので、新しい知識や情報を、授業を通して生徒に伝えることで、さらなる意欲付けや興味関心の向上に努めていきたい。 ・オリンピック・パラリンピックの学習を通して国際的なスポーツイベントを学ぶことにより、オリンピック・パラリンピック以外のスポーツイベント（岩手県でいえば2019年のラグビーW杯）にも興味関心を持ち、関わってみたいと思えるように広がりを生ませしていきたい。 ・来年度以降も本事業を希望し、他競技のアスリートや、現役のアスリートなど、普段関わることがないような体験の場を設定していきたい。